



<http://www.shinshiyou.com>

〒221-0055 横浜市神奈川区大野町1-25 横浜ポートサイドプレイス509 アネックス5F
TEL. 045 (440) 3210 FAX. 045 (440) 3209

発行元／公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会

発行人／会長 木元 茂

編集人／神私幼総務部(広報委員会)

発行／年3回

発行部数／1700部

令和7年度 幼稚園教育経営研修会のご案内

今年度は講師に当連合会の法律相談 顧問弁護士・西村将樹氏をお迎えし、『共同親権について(仮)』。また東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(CEDEP)特任教授・野澤祥子先生より、『長時間保育と問題行動(仮)』について大事な話を伺う予定です。研修会後は意見交換会も予定しております。

皆様のご参加をお待ちしております！

日 時	令和8年1月31日(土) 13:30～17:00予定 ★17:30～同会場で意見交換会を予定しています。
会 場	ロイヤルホールヨコハマ
対 象	加盟園 設置者・園長ならびに後継者、またはこれに準ずる者
募集人数	100名
参 加 費	1名 10,000円(資料代、意見交換会参加費を含む) 詳細・お申込みは『ゆたかなまナビ』からお願いします。
主 催	／一般財団法人神奈川県私立学校教育振興会
実 施	／公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会



令和7年度 神奈川県連合会加盟園数・園児数

協 会 名	園数	園児数	前年度園児数	前年度比
公益社団法人横浜市幼稚園協会	240	30,153	32,707	－ 2,554
公益社団法人川崎市幼稚園協会	82	11,223	12,354	－ 1,131
横須賀市私立幼稚園・認定こども園協会	29	2,763	3,093	－ 330
特定非営利活動法人藤沢市私立幼稚園協会	29	4,106	4,388	－ 282
鎌倉私立幼稚園協会	19	1,949	2,074	－ 125
茅ヶ崎市私立幼稚園協会	14	2,146	2,302	－ 156
湘央地区私立幼稚園協会	39	4,829	5,114	－ 285
小田原私立幼稚園協会	12	1,047	1,148	－ 101
相和私立幼稚園協会	27	3,611	3,812	－ 201
一般社団法人相模原市幼稚園・認定こども園協会	44	5,928	6,227	－ 299
逗葉私立幼稚園協会	5	495	523	－ 28
厚木地区私立幼稚園協会	19	2,234	2,387	－ 153
計	559	70,484	76,129	－ 5,645

県連設立 1948年(昭和23年)



株式会社アルプスビジネスクリエーション

ABC

事業内容

外壁防水

扉などの修理

電気・エアコン修理



お客様の期待を上回る
価値を提供します。

〒223-0057 横浜市港北区新羽町1767

TEL 045-543-4796

建物のお困りごとを解決します。ご相談下さい！

2 / 3

第39回 全日本私立幼稚園連合会 関東地区代表者協議会神奈川大会
『持続可能な経営を目指し～幼稚園だからこそその強みを活かして～』

第38回 全日本私立幼稚園連合会 関東地区教員研修茨城大会

4 / 5

第40回 全日本私立幼稚園連合会 設置者・園長全国研修大会

研究研修部 活動報告 2年間のまとめ
研究特別A部会／研究特別B部会

6

委員会紹介
施設型給付園委員会／102条園委員会

7

2025年度 神奈川県私立幼稚園父母の会連合会 研修大会
子どもたちを危うい情報から守るために必要なこと
～ネットリテラシーを親子で語るために～ 講師 堀 潤 氏

8

Pride of KANAGAWA
法律相談／教育相談／新規賛助会員紹介

今年度の関東地区大会は茨城県つくば市のつくば国際会議場で開かれました。1日目はメインホール。2日目は会議室を利用して各分科会が開催されました。

大会1日目はウクライナ・ハルキウ市出身のチエロ奏者グリブ・トルマチョウ氏による、遠くウクライナを追われ故郷への思いを込めた演奏を鑑賞いたしました。

基調講演では遠藤利彦先生（東京大学大学院教育学研究科教授）による『アタッチメントが拓く

子どもの未来へ「安心と挑戦の循環」を支え促すことの大切さ」のタイトルで講演があり、日本では2〜3割、欧米では7割を超える割合で「発達の問題ではない障害」に苦しんでいる方（愛着障害）があり、それが増えている状況が示されました。乳幼児期に一番近く関わってくれる人の存在が心と身体の健康にとっても大きな影響があることから、乳幼児期にどの様に育てられたか、どのような家庭であったかの縦断研究が21世紀新生児（6万人）を対象に継続されています。また文部

科学省と東京大学・発達保育実践政策センター（CEDPEP）による『幼児教育に関する大規模縦断調査』が5年間の2年目に入り、「幼児教育・保育がその後の子どもの育ちに長期的に影響を及ぼすのか、そして、幼児教育・保育のどのような特徴が子どものより良い育ちに寄与するのかを明らかにする」ための調査が継続中とのことでした。



2日目の分科会では14のフォーラムがあり、神奈川県はフォーラム3『一人ひとりの「よさ」が輝く園を目指して』私たちのチーム作り奮闘記』を担当しました。助言講師に若月芳浩先生（玉川大学教授）を迎え、事例発表を担当頂いた澤井陽平先生（新大船幼稚園）、嶋田知子先生（幼保連携型認定こども園うわまち幼稚園）からの赤裸々な奮闘記を題材に、園内で保育者がやる気を持って日々の保育に取り組み、個人としても、園としても保育の質向上について変革をもたらす難しさと、その困難に取り組んだ結果についても共有いたしました。

（文責・副会長 石渡宏之）

第39回 全日本私立幼稚園連合会関東地区代表者協議会神奈川大会

協議テーマ『持続可能な経営を目指し～幼稚園だからこその強みを活かして～』

開催日：令和7年11月6日(木)・7日(金)
会場：メルキュールホテル横須賀



毎年この時期に関東地区会（群馬・栃木・茨城・埼玉・新潟・千葉・山梨、そして神奈川の8県）の団体代表者が集い、各地区の諸問題や振興策について各県行政担当者を交え、協議し学ぶ標記の協議会。今年は横須賀市での開催となり、100名を超える参加者が集う中、黒岩祐治神奈川県知事、長田進治神奈川県議会議員、上地克明横須賀市長にもお越し頂けて、盛大な会合となりました。

『持続可能な経営を目指し』幼稚園だからこその強みを活かして』をテーマに、文部科学省・石田善顕幼児教育課長による「令和8年度概算要求」、こども家庭庁・出口貴史保育政策課長補佐からは「こども誰でも通園制度」のお話を。また地元歴史研究家・山本詔一氏によるご当地横須賀の歴史講話にも一

同耳を傾けました。翌日は慶應義塾大学・大木聖子准教授による防災訓練についての実に興味深いお話を伺い、最後に各行政担当者を含めた協議会や、新制度移行園を中心に市町村単位での意見交換会も行いました。協議の場では兎角意見で対峙しやすい私立幼稚園と行政ですが、他県関係者からの行政への質問の回答の際、同県幼稚園関係者がフォローする場面がみられる等、県単位での信頼関係の伺える場面にも出会えました。

日米の軍港を眼下に望む横須賀での開催は、多くの参加者にお楽しみ頂けた様で、運営担当者としても嬉しい限りです。各事務局をはじめ、お力添えを頂いた皆様に深く感謝を申し上げます。

（文責・総務部長 鈴木豊司）

11月6日(木) 研修Ⅰ



テーマ① **「令和8年度概算要求について」**
講師 石田 善顕氏（文部科学省 初等中等教育局幼児教育課長）

テーマ② **「こども誰でも通園制度について」**
講師 出口 貴史氏（こども家庭庁 成育局保育政策課 課長補佐）

研修Ⅰでは、国の最新動向を学ぶ2つの研修が行われました。まず「令和8年度概算要求」では、幼児期と小学校をスムーズにつなぐための取り組みが強化され、助成や調査研究、ICT・耐震などの整備が進む予算見通しが示されました。特別支援や医療的ケア、人材確保にも重点が置かれ、園運営を支える施策が検討されています。

続く「こども誰でも通園制度」では、0〜2歳の子どもが、保護者の就

11月6日(木) 研修Ⅱ



テーマ **「小栗上野介と横須賀製鉄所―横須賀1番物語―」**
講師 山本 詔一氏（横須賀開国史研究会 会長）

今回の大会は初の開催地、横須賀で実施され、研修Ⅱでは地元の山本詔一氏より、ペリー来航によって様々な恩恵が横須賀から発信されてきた事についてお話を伺いました。

ペリーの黒船が久里浜海岸に着岸した理由と、ペリーが大統領親書を海兵隊と軍楽隊を伴い浦賀奉行に渡す様子での海兵隊行進の「美しさ」「器用さ」を見た武士たちは、従来の「ナンバ歩き」から西洋風へと変えたこと。その後、江戸幕府は小栗上野介の強い要望により日本に造船所を開くのに、フランス人技術者の全面協力を得たが、先ず船造りには鉄が必要不可欠のため、造船所より製鉄所の着工を優先し、

11月7日(金) 研修Ⅲ



テーマ **「その避難訓練形骸化していませんか？―防災を『教育』に変える園経営戦略―」**
講師 大木 聖子氏（慶應義塾大学 環境情報学部 准教授）

本研修では、大木聖子准教授より「未就学児への防災教育」をテーマに講演が行われました。

幼児期からの安全教育を「防災・交通安全・生活安全」の三本柱として再構成し、教育現場と設置者双方の視点から体系的に整理。能登半島地震などの実例を踏まえ、発災前に把握すべき「地域・施設・人の三つの脆弱性」や、耐震化施設における屋内待機（とどまる避難）の有効性が示されました。従来の「速やかな校庭避難」偏重訓練の危険性を科学的に検証

11月7日(金) 研修Ⅳ



テーマ **「各県情報交換会」**
分科会① **各県行政＆団体代表者による情報交換会**

施設類型が多様化し、新制度への移行が続く中ではありますが、私学助成に関する分科会①への参加者が多い中、進められました。8県の行政・幼稚園団体への事前の照会事項に沿って、まずは行政各担当者より、「経常費等補助金」「預かり保育・子育て支援補助金」「物価高騰に対する助成金」「こども誰でも通園制度」の状況「幼稚園教諭・保育教諭等の人材確保支援」「私学助成園の処遇改善加算」「県独自の幼稚園・認定こども園に関する事

分科会② **市町村対応に関するグループディスカッション**

分科会②では、「県や市町村との関係性における課題や取り組みを共有し、各県ごとに行政・議会への提言をまとめる」ことを目的に協議を行いました。

事前に配付した「協議の流れとルール」により、参加者が進行意図を理解したうえで臨んだため、全体として落ち着いた雰囲気の中で活発な議論が展開されました。グループごとに共通課題と県独自課題を整理し、他県の好事例や行政との協働の工夫を紹介し合う姿も見られました。議論の

中では、職員や幼児のウェルビーイングを尊重する視点の重要性、そして幼児教育の理念を国として明確に示す「幼児教育振興法」の策定の必要性が指摘されました。また、多機能化の流れに対しては、その目的が本当に子どもの育ちのためになっているのかを改めて問い直す意見もありました。

最後には、多くの参加者が政策提言シートを記入し持ち帰り、今後の制度改善への意欲を共有する有意義な分科会となりました。

（文責・研究研修部長 永保貴章）

し、余震下での安全確保を重視する訓練設計の必要性を指摘。幼児にはダンスや紙芝居「ゆうどうくん」などの教材を通して恐怖を和らげ、自ら命を守る行動を育む実践が紹介されました。

職員研修では、子ども一人ひとりの行動傾向を踏まえた「想定外の想定内化」やカード訓練を推奨し、保護者との協働による「命を守り抜く文化」の醸成が強調されました。

（文責・研究研修部 佐伯妙有）

日本人を雇用したことでの新しい生活変化の1つ目として、メートル法を理解し使いこなす様になりました。2つ目は記録写真を残すことにより建築進行の確認が後でも見られる様になりました。3つ目は西洋時間の導入で時間への理解や労働者に新しい生活習慣の流れを教え、最初の時計台も設置しました。4つ目は当時のフランスの習慣であった日曜日休みを日本に定着させた。5つ目は月給制度により纏まった賃金が支払われ収入が安定しました。6つ目は雇用前の健康診断の実施や、施設内に無料診療所の開設。7つ目は希望にて工場内の学校に入り、機械のことを学ぶことができた等、多くの新しい「横須賀1番物語」をお聞きできた研修でした。

（文責・広報委員会副委員長 近藤康弘）

労要件等に関係なく、月一定時間まで通園できる仕組みについて改めて説明がありました。認定こども園だけでなく、幼稚園でも実施でき、利用の予約や利用時間の管理は共通システムで行われています（システムは令和7年度に先行スタート）。利用枠や受け入れ方法は園ごとに設計でき、支援が必要な家庭の孤立防止にもつながる制度として意義が示されました。

どちらの研修も「地域で子どもと家庭を支える」という視点を共有し、今後の園運営に関わる大切な情報を得られる貴重な機会となりました。

（文責・研究研修部次長 古木大悟）

令和7年10月27日・28日開催 第40回 全日本私立幼稚園連合会 設置者・園長全国研修大会

大会テーマ

こどもがまんなかの幼児教育の充実・発展を考え合う
社会状況の変化を乗り越える園を目指して

今年度は、茨城県水戸市の水戸市民会館で大会が開催されました。

記念講演

茨城県立大洗高等学校マーチングバンド部
『BLUE HAWKS』監督 有國 淨光氏
平成2年マーチングバンド部として改称し、スクールカラーの『青』と鋭い動きをイメージした『鷹』から命名されました。国内各地のイベントを中心に年間100回前後の演奏活動を続け、その洗練されたサウンドとシャープな動きは多くのファンを獲得していることです。現在の部員は75名。そのうち、県外の生徒41名も在籍しています。「走ること」「我慢すること」「夢を持ち続けること」を部訓に、地域に愛されるマーチングバンドを目指しているとのこと。

さて、演題の「大切な忘れ物く昭和時代の独り言」という中で、やはり幼少の頃から、「ごめ

研究研修部

活動報告

2年間のまとめ

研究特別A部会

「対話」が育む、理論と実践をつなぐ往還の学び

A部会では、年間5回の対面研修に加え、実際の子どもの姿から学びを深める「公開保育」を取り入れ、それぞれの園で実践しながら学びを積み重ねてきました。講師には和泉短期大学の松山洋平先生をお迎えし、「対話を通して子ども理解を深める」子どもの語り合い、保育を深め合おう」をテーマに、参加者50名を超える保育者と共に、理論と実践を往還しながら探究を進めてまいりました。

初回の研修では、近年の保育を取り巻く大きな変化について整理がありました。こども家庭庁の発足、こども基本法の制定、保育無償化、質の向上への要請、少子化、そしてコロナ禍を経て、幼児教育に求められる視点が大きく変化しています。松山先生は「いまこそ、子ども主体の質の高い保育」が問われている」と語られました。

私たちは改めて幼稚園教育要領の基本に立ち返り、子ども主体の質の高い教育・保育とは何かを確認しました。その根底には、子どもを「理解す

研究特別B部会

保育を一生ものの教育としてみる

B部会では、東京大学名誉教授の佐伯胖先生をお招きし、「保育について、原点から考えてみる」という視点のもと、年間6回（2年間で計12回）にわたり、保育事例を持ち寄って検討してきました。佐伯先生からは、そのつど、深い視点からのコメントをいただき、その後には、コーディネーターの森本壽子先生が、現場での実践に結びつくようにと、ご自分の保育経験を交えながら具体的な説明をされるようにしてくださいだったので、参加者達は、佐伯先生のコメントの内容を深く理解して保育の原点に立ち返ると共に、改めて、保育にとって大切なことは何かを確認するという、大変学びの深い研修会になっていたのではないかと思います。

たとえば、幼稚園教育要領で、幼稚園は学校教育の中にある為、「幼稚園は学校教育なんだ。」というように、私たち保育者は捉えてきました。しかし、佐伯先生はその捉え方に対して「一歩踏み込んで、「保育は、学校教育とは違うのではないか？」との問いを私達に投げかけてこられました。

日本の学校は近代化の過程で、富国強兵のもと決まった形を教え込むという側面を強くして成り立ってきたという歴史的背景から、学校教育は教師側に答えがあつて、それを子ども達に教授するものという意識が強くなってきました。その考え方で保育を行うというのは、どうなんだろうか？ということです。



「子どもをみる」のではなく、「子どもからみる」ことが大切だ。」とおっしゃいました。その為には、子どもと真に「対話」して、子どもの訴えを聴くことが不可欠であり、子どもの「訴え」を聴くとは、子どもの「思い」を丁寧に読み取り、子どもの「願い」を探り出していく姿勢が、保育者には何よりも大切なのだということを、B部会の

の質の向上、等が求められているとの報告でした。
行政報告②

こども家庭庁成育局成育基盤企画課長

「保育政策ならびに行政の動向について」こども家庭庁の役割、少子化対策、幼児期までのこどもの育ち、ウェルビーイング、こども未来戦略、待機児童、保育政策の新たな方向性、保育人材の確保、こども誰でも通園制度の意義、保育士の処遇改善、こども性暴力防止法等、様々な報告がありました。

横田 愛氏

研究講座1・教育

「創り出そう！こどもの未来を拓く

良質な乳幼児期の教育を」
一部は上垣内伸子氏による基調講演、二部は上垣内伸子氏、安家周一氏、丸谷雄輔氏、熊谷知子氏によるフロアディスカッションでした。

研究講座2・振興

研究講座2は筆者が参加した報告になります。

一部は宮下友美恵氏と石田明義氏による、公開保育を活用した幼児教育の質の向上システムというこで、「ECEQ[®]」についての対談でした。



心が動いた瞬間を切り取ることが大切」という言葉が印象に残りました。日々の小さな気づきを仲間と共有し、対話を重ねることが、保育の質を確実に高めていく第一歩であることを実感しました。2025年1月9日は横浜市港北区の認定こども園 高木学園附属幼稚園で、7月15日は横浜市旭区の上白根幼稚園で、A部会公開保育を実施しました。

お忙しい中ご協力くださった両園の園長先生・副園長先生、ならびに現場の先生方に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。公開保育を通じて、実際の子どもの姿や保育の在り方を見つ

参加者たちは、2年間の研修会を通して、深く心にしみ込ませることが出来たのではないかと感じています。
この考え方は、「集団の規律の中で育てていく日本の教育が素晴らしい！」と、世界的に評判になった日本の映画「小学校」それは小さな社会」の山崎エマ監督が語る、「個と集団」「自由と制限」のバランスに関する示唆とも通じます。「個か集団か」「自由か制限か」という二分法で人（子どもたち）を見るのは、外から眺めている見方であり、一人ひとりの子どもが人として、何を考え、どのような願いを持ち、どう生きようとしているのかを見ようとするならば、このような、はっきりとした二分法的な見方にはならないということです。佐伯先生も、『このことは、保育を考えていく時の根本的な問題にも通じる。くれぐれも、日々の保育では「望ましいありよう」を常に念頭に置くことが習慣化しすぎないように注意が必要だ。子ども達がどのように生きたいと思っているのか、何を良いことだと思っているのか、常に子どもから見るという視点を持ちながら子どもたちと向き合っていくことが大切である。』と強調されていました。

このように、社会の中での様々な出来事も随時取り上げながら、保育の根本的なところを深く示唆してくださる佐伯先生の研修会は大変貴重な時間ですので、今後も、何らかの形で佐伯先生をお呼びして学べる研修会を継続していけたらと、参加者のみならずスタッフ一同、強く願っているところです。
(文責・研究研修部 久富多賀子)

研 修 会 報 告					
■ 研究研修部主催					
開催日	研 修 名	会 場	講 師	テ ー マ	参加者数
9/24(水)	保育教諭向け小児食物アレルギー研修会	①ようちえん会館 ②オンデマンド(ZOOM)	国立成育医療研究センター 総合アレルギー科診療部長 福家 辰樹 先生	小児食物アレルギーの基礎知識と緊急時対応を学ぶ	① 11名 ② 168名
9/25(木)	リーダー育成塾	ようちえん会館	社会保険労務士法人 ワーク・イノベーション 代表 菊地加奈子 先生	「これからの法人における働きがいのある組織づくりのために」	36名
10/22(水)	新規採用教員研修会 第4回	アサンテ スポーツパーク(神奈川県立スポーツセンター)	東京女子体育大学講師 堀内 亮輔 先生	「幼児の運動遊び」	81名
11/26(水)	リーダー育成塾	ようちえん会館	ECEQ [®] コーディネーター 阿部 能光 先生	先生の主体性ってなんやねん？ ～トップリーダーもミドルリーダーも 主体のチームづくり～	38名

皆様にお越しいただきました。開会式では、はじめに父母の会連合会副会長・葛西桃子による開会の言葉、続いて父母の会連合会・田中千鶴会長、神奈川県私立幼稚園連合会・木元茂会長より挨拶がありました。

また、ご来賓の方々を代表して神奈川県副知事・橋本和也様、神奈川県議会副議長・谷口かずふみ様、神奈川県私立学校審議会会長・松田良昭様の3名より、ご祝辞をいただきました。私たち保護者が日々の子育てをするうえで、どれほど多くの方々の支えに恵まれているのかを改めて感じる時間となりました。最後は、『子どもたちの健やかな成長と明るい未来を願う』宣言をもって開会式が終了しました。

講演会では、ジャーナリスト、キャスターなど多岐にわたる活動をされている堀潤さんを講師にお招きし、お話をいただきました。



子どもは「日本人は」という大きな主語の言い切りは、実際にはごく一部の例を拡大して語っていることが多く、私たち自身も知らず知らずのうちに、その言葉に引きずられてしまいがちです。そうした「大きな主語の情報に触れたとき



2025年度 神奈川県私立幼稚園父母の会連合会 研修大会

2025年11月27日(木) 神奈川県立音楽堂

●受付/9:30～ ●開会式/10:00～10:40 ●講演/10:40～12:00



子どもたちを危うい情報から守るために必要なこと ネットリテラシーを親子で語るために

講師 堀潤氏

特定非営利活動法人8bitNews代表理事
株式会社わたしをこばにする研究所代表取締役
ジャーナリスト

日々、私たちはスマートフォンやテレビを通して膨大な情報に触れていますが、その便利さの裏に潜む危険や、情報の受け取り方の大切さを、具体的な例を交えて丁寧に伝えてくださいます。日々の暮らしの中で私たちがどのように情報と向き合うべきかについて、多くの学びを得ることができました。特に心に残ったのは、「ニュースとは、そもそもメディアが選んだものだけ」が流れている」という言葉です。私たちはニュースを通じて社会全体を見ているような感覚になりますが、実際には膨大な出来事の中から、メディアが選出した一部だけが私たちの前に現れているに過ぎません。この前提を忘れてしまうと、世界を偏った視点で捉えてしまう危険性があると感じました。

また、堀さんは「主語が大きい情報ほど不正確になりやすい」と指摘されていました。「最近の子どもは」という大きな主語の

こそ、「本当にそうだろうか？」と一度立ち止まり、冷静に考えることが大切だというお話が印象的でした。

時代が大きく変化し、不安や混乱も多い今だからこそ、情報をそのまま鵜呑みにして「自分を委ねてしまう」ことの危うさを強調されていました。情報の真偽が曖昧なまま広がるSNSの特性を踏まえると、私たち自身の「考える力」がこれまで以上に求められています。何かを見聞きしたとき、すぐに反応するのではなく、「これは事実なのか」「この意見は誰の視点なのか」と立ち止まって考える姿勢を大切にしたいと思いました。

最後に、そんなデジタル情報に偏りがちな今こそ、「現実世界の隣の人とよく話すことが大切」だと仰っていました。画面の中の第三者の言葉よりも、目の前の人が語る体験や地域の出来事こそが、確かな情報として大切です。大きな規模の話だけではなく、子育て中の私たちにとっても、周囲の保護者や地域の方々との日常の中で対話を重ねること、それによって初めて見えてくる現実があるのだと実感しました。そして、子どもたちにとっても、リアルを見て知る「力」は欠かせません。画面越しの刺激的な情報よりも、友達との関わり、先生とのやりとり、地域での体験など、実際に身体で感じる経験こそが子どもたちの価値観を育てま

す。大人が、情報を鵜呑みにせずに考える姿勢を示すことで、子どもたちも自然と「なぜ？」を大切にできるように感じました。

今回の講演を通して、私自身、日々の情報との向き合い方を改めて見つめ直すことができました。これからは、ニュースを見ても「これは選ばれた情報である」という前提を忘れず、情報に身を委ねすぎないように気を付けたいです。そして、家庭でも地域でも、人と直接言葉を交わしながら、子どもたちの「本物を見る目」を育てていきたいと強く感じました。今回、貴重なお話を拝聴できる機会に恵まれたことに感謝するとともに、今後の子どもたちと過ごす時間に役立てていただけたら幸いです。

(文責・神奈川県私立幼稚園
父母の会連合会副会長 葛西桃子)

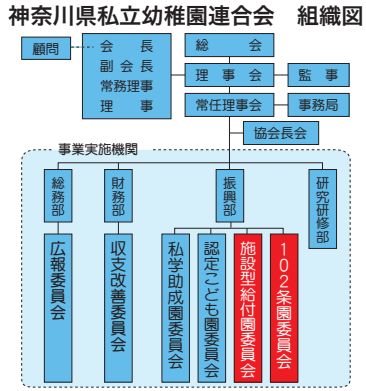
2025年度父母の会連合会研修大会 アーカイブ配信

配信期間 2025年12月4日(木)～2026年1月3日(土)

URL : <https://www.shinshiyou.com/parents.html>

ID : fubokai/PW : 1127

※限定公開のため、ID/PW は園保護者様限りでお願いします。



施設型給付園委員会

新制度施行10年、 新たな一歩を踏み出すために

子ども・子育て支援新制度施行から10年―制度の成熟とともに、幼稚園を取り巻く環境は大きく変化しています。

少子化の進行や保育ニーズの多様化、人材不足など、制度開始当初とは異なる課題が次々と現場に押し寄せ、より複雑で多様化しています。こうした中で、私たち幼稚園には柔軟かつ的確な対応が常に求められており、制度の中での幼稚園が果たすべき役割についても、改めて見つめ直す必要が出てきています。

こうした背景を踏まえ、令和6年度の神奈川県私立幼稚園連合会の組織改編に伴い、新たに設置され



施設型給付園委員会
委員長
中尾 賢 治



たのが「施設型給付園委員会」です。委員会活動は年2回と限られていますが、県内12地区の代表者が一堂に会し、それぞれの地域で直面する課題や取り組みを共有し合うことで、現場の課題解決や制度理解の促進につながるきっかけを生み出しており、さらなる発展を目指す実践的な協議の場となっています。

加えて、制度運営に関する情報交換にとどまらず、自治体との連携状況や活用可能な施策の紹介、現場での工夫や課題への対応事例など、具体的かつ

102条園委員会 変化を恐れない園づくり

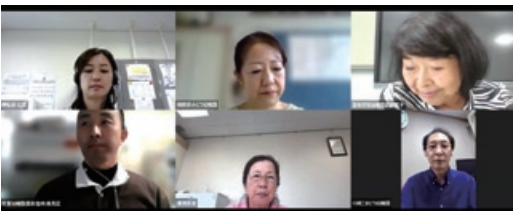
102条園委員会は、個人立・宗教法人立幼稚園としての特色や課題を共有し、互いに学び合うことを目的とした組織です。社会や制度が大きく変化の中で、私たち102条園がどのように未来に向けて園をつないでいくか。その問いに真摯に向き合いながら、年に一度の研修会を通して情報交換等を行っております。今年度は12月に研修会を行うことが決定いたしました。

102条園に限ったことではございませんが、近年は園児数の減少、保護者の働き方の多様化、ICT化の波：など避けて通れない課題が山積しています。このように教育・保育を取り巻く環境は目まぐるしく変化しており、幼稚園には「守る」だけでなく



102条園委員会
委員長
内田 和 代

く「変わる」力が求められています。



変化は脅威ではなく、むしろ「成長・進化へのきっかけ」と捉える意識を持つべきです。実際、ICT化は忙しい現場に一時の負担をもたらしましたが、すぐに慣れ、管理の効率化や情報発信の質の向上など、多くのメリットを実感できました。さらに「どうすればもっと良く活用できるか」という前向きな発想も生まれ、これは現場にと

って大きな財産になったと感じています。

また、変化には「手放す勇氣」も必要です。長く続けてきた行事や慣習を見直すのは決して容易ではなく、相応のエネルギーを要します。しかし、私たちが本来目指すべきは「伝統を守ること」そのものではありません。もし行事の数を減らしたことで、職員が子どもと向き合う時間を確保でき、保育の質が向上するのであれば、それは大きな前進です。大切なのは、「なぜ変えるのか」を共有し、目的を見失わないことだと思います。

どんな時代であっても、子どもの健やかな成長を真ん中に置くという軸は揺らぎません。そのうえで、社会の変化を恐れず、園の理念を基盤に新たな挑戦を重ねていく。それこそが「変化を恐れない園づくり」であり、これからの幼稚園経営に求められる姿だと感じています。

実践的な内容を共有しながら、議論を深めています。

特に近年では、施設類型を問わず「人材確保」が重要なテーマとなっていますが、教職員の安定的な確保に向けた制度の活用や、地域独自の取り組みを紹介し合うなどして、現場に即した対応策を模索する場としての役割も高まっています。こうした議論は、単なる情報交換にとどまらず、園運営に役立つ知見の蓄積を通じて、地域の幼児教育の質の向上へとつながっています。

今後は、各地区での市町村との連携方法や活用可能な施策を参考にしながら、12協会それぞれの地域特性を踏まえ、神奈川県私立幼稚園連合会全加盟園にとって、質の高い教育・保育環境の構築に向けた提案を行える委員会として着実に歩みを進めていきたいと考えています。

祝

Pride of KANAGAWA

令和7年度 神奈川県私立学校教育功労者表彰



令和7年11月12日に、神奈川県庁本庁舎「正庁」において令和7年度神奈川県私立学校教育功労者表彰の表彰式が行われました。心よりお祝い申し上げます。



池田 清 先生 学校法人池田学園 理事長
ふじがおか第二幼稚園 園長
ふじがおか幼稚園 設置者・園長

和田 嘉明 先生 学校法人和田学園
柏幼稚園 理事長

黛 裕治 先生 学校法人黛学園 理事長
清心幼稚園 園長

解説

神奈川県私立学校教育功労者表彰とは

私立学校教育の振興を図るため、知事所轄の私立学校の教職員、校長、園長、理事長及び設置者として、他の模範となる特に顕著な功績をあげた方に贈られます。

瑞宝小綬章



工 藤 誠一 先生
学校法人 聖マリア学園 理事長
聖光学院中学校高等学校 校長
さゆり幼稚園 園長

永年に亘り教育に尽力されたご功績により秋の叙勲において瑞宝小綬章の栄誉に浴されました。心よりお祝い申し上げます。

解説

瑞宝小綬章とは

日本の勲章制度の一つで、国や地方公共団体の公務などで長年にわたり功績を挙げた人に贈られます。



JAKUETS

株式会社ジャクエツ 横浜店
神奈川県横浜市神奈川区片倉 2-22-1
TEL 045-481-7221 FAX 045-481-7222

法律相談

R&G横浜法律事務所

〒220-0012
横浜市西区みなとみらい4丁目4番2号
横浜ブルーアベニュー2階
TEL.045-671-9654



県連窓口担当

西村 将樹 弁護士

民法の改正

婚姻中の父母に認められている共同親権を離婚後も可能にする民法改正が来々4月1日に施行されることが閣議決定されました。施行後は離婚時に協議して単独または共同親権とするかを決めることになり、協議が成立しなければ家庭裁判所が子の利益の観点から判断します。施行日前に離婚した場合でも親権者の変更を申し立て、裁判所の判断時期が施行日以降であれば単独から共同親権への変更も可能となります。また、離婚した際に取り決めがなくても子を養育する親が相手に暫定的な養育費を請求できる法定養育費制度も新設され、法務省はその額について子1人あたり月2万円とする案を示しており、この制度も来々4月1日から始まります。

教育相談

相談の申し込み

電話・ホームページから事務局へ
申し込みください。

TEL.045-440-3210
<http://www.shinshiyou.com>



教育相談員

鈴木 敦子 先生
(臨床発達心理士)

カーテンにぶら下がる

一言い聞かせない支援方法一

天井からカーテンが下がり、タッセルでひとまとめにしてあげればぶら下がりたくなります。でも大目に見られるのは年少さんくらいでしょうか。今小学校での着替えは男女別室です。それがかなわない場合は教室の真ん中にカーテンを引くようになっています。そのカーテンが魅力的で小学校2年生の女子がぶら下がっていました。天井の金具が数個取れています。当然注意されますが、止まりません。担任教諭は次の手として席替えをしました。仲よしガカーテン近くの席なので吸い寄せられ、近づけばついぶら下がりたくなります。自力で行動コントロールが難しい子どもには本見を厳しく叱責せず、誘引となっている友達の席を移動させる、このような環境設定が非常に重要です。

NEW 新規賛助会員

株式会社プレジャー

取扱：幼稚園改修事業(床・園庭・トイレ・厨房等)

〒210-0005 神奈川県川崎市川崎区東田町1番地2 いちご川崎ビル6F Tel. 044-230-0101



賛助会員を広く募集しています

加盟園の皆様からのご紹介をお待ちしています。
ぜひ県連事務局へご連絡下さい。

Panasonic

パナソニックは
一般照明用蛍光灯の生産を
2027年9月までにすべて終了いたします。



すでに一部の器具やランプは
製造中止や生産終了などの
規制が始まっています！
LED化の先送りリスクにご注意を

お使いの蛍光灯の調査を致します

ziainor Panasonic

次亜塩素酸で空気を洗って、清潔除菌



静電HEPAフィルターによる集じん機能
搭載 キャッチした菌・ウィルスも抑制



2週間無料体感キャンペーン

現場調査・無料貸し出し等お問合せ パナソニック株式会社 横浜電材営業所 本多聖一
090-8794-7869 honda.seichi0406@jp.panasonic.com